

テーマ エネルギー対策

ホットな街のエコ作戦！地球と人にやさしい環境を提供

湯原町旅館協同組合

地球にも人にも優しいエコ活動で組合イメージと集客アップを図るため、旅館と家庭から出る使用済み天ぷら油を再利用し、クリーンなBDF（バイオディーゼル燃料）を活用した地域循環型社会を目指す。

背景と目的

当組合では真庭市湯原地区を流れる旭川上流域に位置する当組合の各旅館で発生する使用済み天ぷら油の処理問題や賑わっていた温泉宿泊客の減少などの課題が生じていた。平成15年からスタートした温泉指南役事業では、海外視察において目の当たりにしたエコ事業をヒントに、平成16年度から組合独自のEDF事業（エコディーゼル燃料事業）に取り組み、環境に配慮した地球と人に優しい温泉地づくりを目指した。（平成17年4月から運用開始）

事業・活動の内容

理事長が中心となって、地元学校やPTAへの働きかけを行い、温泉旅館や地元の家などから排出される廃油（使用済み天ぷら油）を組合が買い取り、連携者である有限会社エコライフ商友がBDF（バイオディーゼル燃料）を精製してディーゼル車の燃料として再利用する仕組みを構築した。燃料精製時には、試行錯誤の結果、最適な精製比率を発見し、燃料効率に優れ、エンジンを清浄できる機能も持ち合わせたことから、古いディーゼル車輦への古い燃料の根詰まり（初回走行距離約500km）を引き起こすというハプニングはあったものの、排出されるガスも二酸化炭素で有害物質の発生も少なく、有益なエコ燃料として注目されている。

また、BDFは主に各旅館の宿泊

活動の成果

送迎用車輦に使用されており、BDF燃料を購入した際の資金の一部は地元小学校への図書寄贈という形で地域貢献されるなど、地域循環型社会の構築が実現されている。

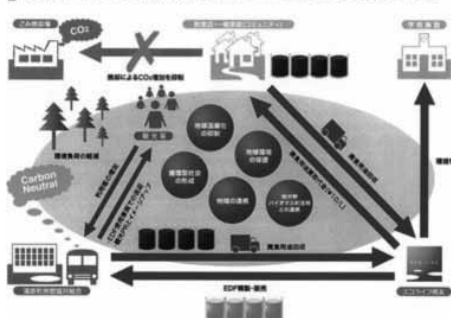
地球と人にやさしい温泉地というイメージが定着し、来街者数の増加や地域住民や地元行政との連携も進んでいる。使用済み天ぷら油の回収率も当初の75倍（6,000リットル/月）に達するなど地元に着しているほか、環境への取り組みという点でマスコミ等の取材も多く、同温泉地の観光PRにもつながっている。

組合全体の結束力も高まり、実働隊である後継者（青年部）の育成強化や組合ホームページへのアクセス数の増加といった相乗効果も出ているほか、比較的安価なBDF利用による経費削減効果など

もある。

このような取組みが、地元住民や行政も動かし、地域全体での大きなシステムが構築されている。

私たちは「真庭エコディーゼル燃料事業」を通じて真庭独自の地域循環システムの構築を目指します。



▲事業活動全体のイメージ図
地域循環サイクルの流れ

湯原町旅館協同組合

住所：〒717-0402
岡山県真庭市湯原温泉156-16
設立：昭和31年7月
出資金：5,895千円
電話：0867-62-3022
URL：http://www.yubara.com/
業種：旅館業
会員：21人
組合専従者：1人